

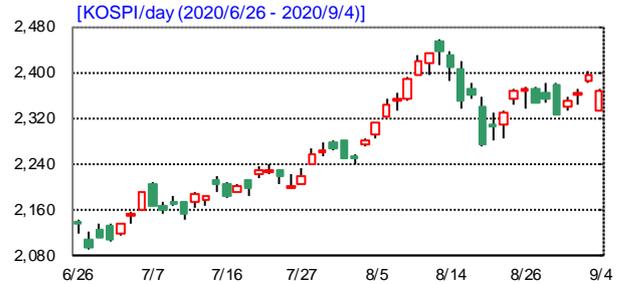


【韓国】 総合指数は週間で0.6%高と続伸、今週もコロナや米市場に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.6%高と小幅続伸。週明け8月31日は国内での新型コロナの感染拡大を嫌気して約1週間ぶり安値をつけたものの、9月1-3日は3連騰。韓国政府が新型コロナで低迷した国内景気の刺激策を盛り込んだ予算案を閣議で決めたことが好感されたほか、連日の米ハイテク株高も支えとなり、投資家は運用リスクを選好する姿勢を強めた。サムスン電子など主力ハイテク株が上昇を主導。建設や金融株が買われる場面もあった。3日終値は約3週ぶり高値。ただ、節目の2400ポイントを超える水準では伸び悩んだ。4日は前日の米ハイテク株の急落が嫌気され、4日ぶりに反落した。今週も国内の新型コロナ感染状況や米ハイテク株の動きに注目が集まるか。経済指標では国内の雇用統計や金融統計が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は3.6%安と大幅に反落、今週もナワリヌイ氏問題が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.6%安と大幅反落。ドイツに搬送されたロシアの反体制派指導者が重体に陥り、ドイツ政府がロシアを非難したことで、株式相場は2日に急落した。週前半は原油や為替相場をにらんでもみ合ったが、2日にRTS指数が3.1%下落。反体制派指導者のアレクセイ・ナワリヌイ氏が意識不明の重体となったことについて、ドイツ政府は2日、神経剤が使われた「疑いのない証拠」が見つかったと発表。メルケル首相が事件を「毒殺の試み」だったと断定したことでロシアと西側諸国との関係悪化懸念が強まった。指数は4日まで続落し、7月中旬以来の水準に落ち込んだ。個別では産金株やエネルギー株が大きく下落し、指数を押し下げた。今週もナワリヌイ氏問題による西側諸国との関係悪化懸念が重しか。

▼指数チャート

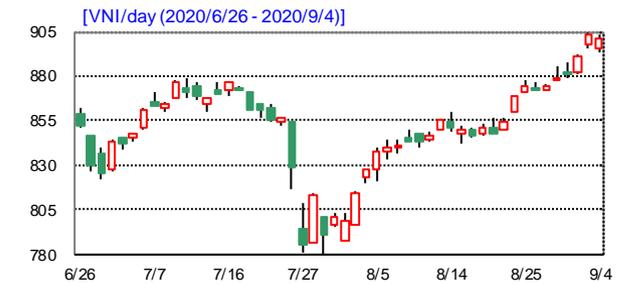


【ベトナム】 ベトナム指数は2.6%高と5週続伸 今週は景気回復見通しで堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.6%高と5週続伸。早期景気回復見通しが強まる中、資金流入期待を背景に堅調な展開が続いた。先週は2日が祝日で4日間の取引で、指数は週明けから続伸。コロナ後の早期景気回復期待が続く中、年初から大きく下落した飲料株や空運株が上昇し、相場をけん引した。その後も米FRBの超緩和的金融政策の長期化見通しを背景に資金流入期待から不動産、金融株が買われた。VN指数は3日まで5営業日続伸。3日は終値で900ポイントを超え、約半年ぶりの高値を更新した。個別では空運のベトジェット航空が7.0%高、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が5.6%高、不動産のビンググループが4.6%高、金融のベトナム投資開発銀行が3.8%高となった。今週も早期の景気回復見通しを背景に堅調か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.0%安、新型コロナウイルスの変異株確認を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 2.0%安と 4 週ぶりに反落。8 月月間では 1.7%高。先週は週初の下落が痛手だった。31 日は国内で新型コロナウイルスの変異株が確認されたことが嫌気され、指数は終値で前営業日比 2.0%安と続落したが、1 日は金融株が指数上昇をけん引し、前日比 1.4%高と反発。その後は 3 日まで 5300 ポイントを挟んでもみ合ったが、4 日は前日の NY ダウが IT 株に利益確定売りが出て急落した流れで場中に一時 5200 ポイントを割り込み、続落して取引を終えている。今週は 9 日に 7 月の小売売上高が発表される予定。外部要因では 7 日発表の中国の 8 月の貿易統計の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.2%安、外部要因で指数が下落

スレーツタイムズ指数は週間で 1.2%安と反落。8 月月間では 0.1%高。先週は週末の下落が指数を押し下げた。週初の 31 日は米中関係の先行き不透明感や前週末の安倍首相の辞任発表が売り材料となり、指数は反落。その後は買い優勢に転じ、2 日まで上昇したが、3 日は中国とインドの国境係争地での軍事衝突の深刻化が嫌気され、3 日ぶりに反落した。4 日は前日の取引終了後に発表された 8 月の製造業 PMI が 2 カ月連続で 50 ポイントを超えたほか、7 月の小売売上高も市場予想から上振れたが効果は薄く、続落して取引を終えている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%安、原油安でエネルギー株が下落

SET 指数は 4 日間の取引で 0.9%安と反落。8 月月間では 1.3%安。先週は買い材料に乏しく、軟調に推移した。31 日はエネルギー需要の先行き不透明感の広がりを受けて原油価格が下落した影響で関連株が売られ、指数は前営業日比 1.0%安と続落。1 日も売り優勢の展開が続いたが、2 日は前日の NY ダウが上昇した流れで反発した。ただ、3 日は金融株とエネルギー株が売られ、反落して連休前の取引を終えている。今週は経済イベントが少なく、9 月 2 日に財務相が就任から約 3 週間で辞任するなど、混乱が続く政局の動向が注目される。7 日は延期されていたソンクラーン（旧正月）の振替休日のため休場。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.6%安と続落。8 月月間では 4.9%安。先週は本格的な決算シーズンが前週で終わり、売り買いが交錯した。連休明けの 1 日は、前週末から下げ止まらず続落した一方、2 日は前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、1.1%高と反発。ただ、3 日に利益確定売りが出て前日比 1.4%下落すると、4 日はほぼ横ばいで取引を終えている。今週は 10 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、11 日には 7 月の鉱工業生産と小売売上高が発表される予定。中央銀行は前回まで 4 会合連続で政策金利を引き下げたが、今回は 1.75%に据え置くとの見方が優勢となっている。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。